

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：中山 迅
事務局：宮崎大学大学院教育学研究科 内
URL：<http://www.jsse.jp>

2012.10.15

NO.209

科学教育研究レター



目 次

- | | | | |
|----------------------|---------|-------------------------|---------|
| ■ 学会長挨拶 | | ■ 研究会・支部だより | |
| 学会長就任のご挨拶 |2 | 平成 24 年度研究会開催のお知らせ |12 |
| ■ 総会 | | (1) 第 1 回研究会 (九州沖縄支部開催) | |
| 第 36 回定時総会報告 |3 | (2) 第 2 回研究会 (北海道支部開催) | |
| ■ 理事会だより | | ■ 若手の会 | |
| 第 250 回理事会報告 |4 | 第 36 回年会・若手の会報告 | |
| 第 251 回理事会報告 (案) |7 | ■ 国際交流委員会だより |13 |
| 第 252 回理事会報告 (案) |9 | ランチョン・ミーティング報告 | |
| 平成 24 年度顧問会・評議員会・ | | 海外の学会参加報告 (6) |14 |
| 支部役員会合同会議報告 |10 | 国際学会開催情報 |14 |
| ■ 年会 | | ■ 編集委員会だより |15 |
| 第 36 回年会開催報告 |11 | 特集「科学教師教育」投稿締め切り延長 | |
| 第 37 回年会開催案内 (第 1 次) |12 | のお知らせ | |
| | | 平成 24 年度第 1 回編集委員会報告 |15 |
| | | ■ 広報委員会からのお知らせ |15 |

学会長就任のご挨拶

中山 迅（宮崎大学大学院教育学研究科・教授）

この度、日本科学教育学会の会長に就任させていただくにあたり、一言、ご挨拶をさせていただきます。

日本科学教育学会は1977年に設立されましたが、「設立趣意書」には、当時の問題意識として「科学教育を一つの学際的科学として研究することを目的とした組織は欠けていた」という言葉が記されています。このことから、本学会は「科学教育」というキーワードに対して「学際的」に取り組むことを特色としてスタートしたと言えるでしょう。

設立趣意書には次のような言葉もあります。

「本学会の一つの目標として考えられるのは、抽象的表現ではあるが、たとえば科学教育は何人のために、何のために役立つべきかの問題を根本的立場から問いただすことである。」

ここには、科学の基本や教育の目標論に立ち返って科学にまつわる教育について徹底的に研究しようとする意図が示されています。

さらに、「あるいは科学を専門としない人たちが、科学や技術は物質的、非人間的なものだと考える風潮に対して、科学や技術もまた芸術や文学や宗教と同様に、人間性と切り離すことのできないものだという理解を、多くの人々の間に広めることだといってもよいであろう。」という記述もあります。科学を専門家だけではなく幅広い市民と共有しようとする意思が明確に示されており、近年、サイエンスコミュニケーションの重要性に、早い時期に気づいていたことが分かります。

このような問題意識と目的意識に基づき、設立趣意書は「本学会の事業の一例として考えられることは、初等、中等、高等教育各層の教育者、関係諸分野の研究者が、なるべく共通な話題を通じて互いに啓発し合い、自由に討論しうる場を作ることである。」と述べています。

私は、本学会の最も重要な機能の一つは、科学教育に関心のある多様な人々が、学術的な立場から自由に問題を立ち上げたり、発表したり、意見交換したりできるような場を作ることであると考えています。

定款の第4条に示されている「目的」は次のようなものです。

第4条 本会は、科学についての教育及び科学的、工学的方法による教育に関する研究の進歩普及に資するため、次のものを行うことを目的とする。

- (1) 会員の科学教育に関する研究発表、知識の交換を行うこと。
- (2) 会員相互間及び内外関連学協会等との連絡提携を図ること。
- (3) 会員の科学教育に関する研究及びその実施に寄与すること。

私の考えでは、これらのうちの(1)が最も重要です。研究の主体は、あくまでも会員です。学会は、会員の研究を、幅広く、深く、そして鋭くするための道具です。使いやすだけでなく、目的に迫る高い性能を有する道具でなければなりません。

これからの任期では、会員による研究が活性化し、優れた成果が次々と生まれるような道具となるように、この学会の仕組みを整備していきたいと考えています。その道具が生きるためには、理事・監事

などの役員、各種委員会の委員はもとより、すべての会員による研究的なイニシアチブが重要です。
すべての会員の皆様の、あらゆる部門での意欲的な参加に期待しています。

総 会

日本科学教育学会第 36 回定時総会 報告

日 時：2012 年 8 月 28 日（火）12：30～13：30

場 所：東京理科大学 神楽坂校舎 2 号館 211 教室

- 次 第 (進行：吉岡亮衛 理事)
1. 開会の辞 (吉川 厚 副会長)
 2. 第 36 回年会開催校・実行委員長挨拶 (澤田利夫 委員長)
 3. 会長挨拶 (吉田 淳 会長)
 4. 議長選出
定款第 26 条により、吉田 淳 会長を議長に選出した。
 5. 議事録署名人委任 (吉田 淳 会長)
議事録署名人を澤田利夫（東京理科大学）、下村 勉（三重大学）の両会員に委任することを、拍手をもって承認した。
総会出席者 64 名、委任状 64 通で定時総会成立を確認した。
 6. 審議 (議長：吉田 淳 会長)
 - 1) 第 1 号議案の提案 (吉岡亮衛・坂谷内勝 理事)
2011 年度事業報告書及び収支決算書の説明と提案が行われた。
 - 2) 監査報告 (鶴岡義彦 監事)
監査の結果、学会のすべての会計処理が適正に行われていたことを確認した旨の報告があり、第 1 号議案は承認された。
 - 3) 第 2 号議案の提案 (吉岡亮衛・坂谷内勝 理事)
2012 年度事業計画書及び収支予算書（案）の説明と提案が行われ、第 2 号議案は承認された。
 - 4) 第 3 号議案の提案 (吉岡亮衛 理事)
新役員候補者選出の経過説明と提案が行われ、第 3 号議案は承認された。
 7. 新会長挨拶 (中山 迅 新会長)
 8. 表彰
 - 1) 経過報告 (片平克弘 理事)
学会賞選考委員会での選考経過の報告が行われた。
 - 2) 表彰 (吉田 淳 会長)
年会発表賞
・吉田安規良（琉球大学）

・井上美喜子（産業技術総合研究所）

なお、大塚賞、学術賞、国際貢献賞、論文賞、奨励賞、科学教育実践賞については本年は該当なし。

9. 次年度第 37 回年会実行委員長挨拶（下村 勉 三重大学教授）

10. 閉会の辞（吉川 厚 副会長）

（記録：吉岡亮衛 理事）

議事録署名人

日本科学教育学会第 36 回定時総会の議事が、上記のように執り行われたことが間違いないことを証します。

澤田利夫（第 36 回年会実行委員長） 下村 勉（第 37 回年会実行委員長）

理事会だより

日本科学教育学会第 250 回理事会報告

（要点のみ参考掲載）

日 時 2012 年 6 月 16 日（土）14:00～17:00

会 場 コクヨ 品川オフィス会議室

出席者 会長 吉田

熊野 吉川 小川 坂谷内 猿田 土田 銀島

片平 藤岡 今村 縣 小山 隅田 高藤 荻原 久保田

監事 堀 鶴岡

幹事 平野

委員長 中山

1. 議事要録（案）の承認

○第 249 回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第 250 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により、3 月 31 日までに入会を希望した 6 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（4 月 9 日）。

○事務局からの発議により、4 月 27 日までに入会を希望した 13 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（5 月 10 日）。

○事務局からの発議により、5月31日までに入会を希望した22名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(6月11日)。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

- 文書受理(刊行物・メール受理も含む)について報告があった。
- 公益財団法人 日本科学技術振興財団より、「青少年のための科学の祭典」2012 後援名義使用申請(4月26日)の報告があった。
- 原書房より、全国各種団体名鑑2013 掲載原稿の確認があり、会員総数および役員の記載等の訂正をして、回答したとの報告があった。
- 名誉会員のご逝去にあたって、学会対応は会長判断事項であることを確認された。

2) 経理・会員

- 決算に向けた経理進行状況、年度末会計締め以降の監査等に関する手続き日程について報告があった。

3) 機関誌編集

- 編集状況について、資料に基づき報告があった。特集(36-2、科学才能教育)の発刊について予定通り6月末刊行に向けて順調に進んでいると報告があった。
- 新旧委員の引き継ぎを潤滑に行うため、現在案出中の新委員候補について7月中にメール審議に諮りたいとの依頼があった。
- 査読システムの改良作業の進捗について、価格帯を設定して中西印刷と交渉する予定であると報告があった。

4) 学会賞

- 学会賞については科学教育実践賞のみ、会員からの推薦が1件あった。会長、副会長、学会賞担当理事、機関誌編集担当理事、編集委員会委員長による選考の結果、該当しないと判断されたことについて報告があった。
- 学会賞候補者の推薦が低調であるため、促進に向けた表彰規程の改訂について、庶務担当理事・学会賞担当理事の共同立案により11月理事会で検討をお願いしたいとの提案があった。
- 年会発表賞候補の推薦については、前年度と同様な形式によって行うことについて報告があった。

5) 支部・研究会

- 6月23日(土)に北陸甲信越支部・東海支部の2会場で研究会を実施予定であること、また、平成24年度の支部長ならびに支部・研究会の開催確認を進めていることについて報告があった。
- 支部・研究会の活動推進に事業費を適宜活用し、各支部へ周知することとした。また、『科学教育研究報告』の原稿PDFのWeb掲載を行うこととした。

6) 調査研究・学術交流

- 5月19日開催のCSERS第17回シンポジウムについて報告があった。

7) 国際交流

- 米国・サウスカロライナ州で2013年1月9-12日に開催されるASTE 2013 International Conferenceと、タイ・バンコクで2013年1月17-20日に開催されるISMTEC 2013 (International Science, Mathematics and Technology Education Conference)について案内があった。
- アジアの科学教育動向について、タイにおける大学院の科学教育振興(学生数の急増と国外留学に

よる質保証) について報告があった。

○若手会員の国際化や会員拡大を図る観点から、新入会員や外国人参会者を対象とした昼食会を年会第2日に開催することが提案され、会員拡大・年会企画担当理事と調整を行うことを前提にして承認された。

8) 年会企画

○第36回年会(2012)の準備状況について、7月7日にプログラム会議を開催予定。各種委員会に対して会議開催の有無・参加人数について問い合わせ中であるとの報告があった。

○第38回年会(2014)の開催校について、現在のところ未定であるため、年会開催時を中心に声かけを展開したいと報告があった。

9) 会員拡大

○国際交流との共同企画で、年会第2日に昼食会を開催することの報告があった。

10) 役員選挙について

○選挙とその過程について、2012-2015年度の役員選挙公報と投票用紙を会員に送付した(4月23日)。同役員選挙の開票作業を事務支局において実施した(6月2日)。

○投票・開票結果

投票総数 392 票 (無効票 10 票) 実質有効投票数 382 票

開票結果 (当選者)

(1) 会長 中山 迅

(2) 理事 稲垣成哲、鈴木真理子、益子典文、余田義彦、鈴木 誠、日野圭子、清水美憲、谷塚光典

(3) 監事 熊野善介

○役員選任規定による役員選挙の結果に基づき、当選者を各役員候補者(任期4年)に理事会として推薦した。このほか、役員選任規定による会長推薦理事候補者に次の会員2名を推薦した。会長推薦理事候補者(任期4年): 飯島康之、寺田光宏

○各役員候補者への文書による連絡確認作業は、庶務担当理事から事務支局に依頼して行い、推薦内容を確定させる。その後、次年度の体制づくりとして担当理事や委員長の内定、委員会委員候補の検討を進めていくことが報告された。

○役員選挙実施上の工夫について、有効・無効票や白票の判断に関して取り決めが必要であること、開票作業時間の短縮に向けて人手増員が必要であることが、指摘された。これらについては次期会長への申し送り事項とした。

11) 東日本大震災関連

○第36回年会で東日本大震災関連の報告があること、また、国から教員養成系学部・大学や教育委員会に対する予算措置を活かしてコミットした対応をお願いしたいと、報告があった。

○被災者を対象とした1年間の会費免除措置が終了したことの報告があった。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者10名が承認された。

*現在会員数1333名(正会員1221名、学生会員95名、名誉会員12名、公共会員2名、賛助会員3名)(2012年6月5日付)

2) 後援依頼

○公益財団法人 原子力安全研究協会より、平成 24 年度「放射線等に関する教育職員セミナー」後援名義使用の依頼について（受理の日付：12/05/10）承認された。

3) 候補者推薦について

○平成 25 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者の推薦について、吉田会長を推薦する提案があり、承認された。

4) 著作権規程の改訂について

○著作権規程案作成のためのWGについて、次回理事会で提案するとの報告があった。

5) 定時総会について

○8月28日の定時総会では3つの議案を審議すること、7月始めまでに各会務担当理事は事業報告ならびに事業計画案について報告し、これを踏まえて予算上の措置について経理・会員担当理事が予算案の案出を行うこと、7月下旬に定時総会資料に関してメール審議を行った上で『学会通信』の発行を行うことについて、確認があった。

5. 次回以降の理事会予定

第 251 回：2012 年 8 月 27 日（月）17:30～18:30 場所：東京理科大学

※顧問・理事・評議員・支部長合同会議

：2012 年 8 月 27 日（月）18:30～19:30 場所：東京理科大学

<2012 年度新体制>

第 252 回：2012 年 8 月 29 日（水）12:30～13:30 場所：東京理科大学

日本科学教育学会第 251 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2012 年 8 月 27 日（月）17:30～18:30

会 場 東京理科大学 2 号館 241 教室

出席者 会長 吉田

熊野 吉川 小川 坂谷内 猿田 土田 銀島 美馬 片平 藤岡

今村 渡辺 佐伯 高藤 荻原 久保田

監事 堀 鶴岡

顧問 浪川

委員長 中山

支部長 澤田 鎌田

1. 議事要録（案）の承認

○第 250 回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第 251 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果を承認した。

- 6月30日までに入会を希望した36名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された。
(7月6日)
- 7月31日までに入会を希望した16名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された。
(8月10日)

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

- 事務局より文書受理(刊行物送付、メール受理を含む)の報告があった。
- 平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者の推薦について文部科学省に提出し、平野幹事がヒアリングに対応した。

2) 経理・会員

- 除籍候補者について、1名は保留された。また、住所不明者について、事務支局へ連絡するよう要請された。

3) 機関誌編集

- 機関誌編集について資料に基づき報告があった。
- 平成24年度特集(第37巻2号、「科学教師教育」)の編集状況について報告があった。
- 査読システムの改良について、中西印刷に対し吉川副会長の折衝により完了した旨の報告があった。

4) 学会賞

- 年会発表賞への投票のお願いがなされた。

5) 支部・研究会

- 平成23年度は、8支部で研究会を開催し、中国支部でシンポジウムを1回行ったとの報告があった。

6) 国際交流

- 国際交流委員会と会員拡大担当との合同昼食会を年会で開催する予定との報告があった。

7) 年会企画

- 第36回年会の状況報告がなされた。事前申し込み293名、当日参加162名(最終確定)。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

- 名誉会員候補3名を除く42名の退会を承認した。

*現在会員数1368名(正会員1235名、学生会員116名、名誉会員12名、公共会員2名、賛助会員3名)(2012年8月23日付)

(前回理事会:会員数1333名(正会員1221名、学生会員95名、名誉会員12名、公共会員2名、賛助会員3名)(2012年6月5日付)

2) 第36回定時総会議案について報告があり、修正事項について承認された。

3) 著作権規程について、これまでのWGでの経緯を報告があり、承認された。

5. 吉田会長からの申し送り事項(以下)があった。

1) 学会の法人化に向けた検討。

2) 会員拡大について、教育系以外の大学関係者へのアプローチ。

3) インターナショナル会員に対する制度の検討。

4) 事務支局の業務集中についての検討。

6. 次回以降の理事会等予定

- ・顧問会・評議委員会・支部役員会合同会議：同日 18：30～19：30（2号館 241 教室）
- ・新理事会（第 252 回理事会）：8 月 29 日（水）12:30～13:30（2号館 241 教室）

日本科学教育学会第 252 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2012 年 8 月 27 日（月）17：30～18：30

会 場 東京理科大学 2 号館 241 教室

出席者 会長 中山

片平 余田 小川 飯島 猿田 益子 銀島 寺田 稲垣 今村

鈴木誠 縣 清水 高藤 日野 久保田 谷塚

幹事 堀 熊野

オブザーバー 土田 吉川 坂谷内 青山

1. 報告事項

1) 副会長の指名について

○片平克弘氏、余田義彦氏が指名され、異議なく承認された。

2) 事務局長の委嘱について

○土田 理氏が推薦され、異議なく承認された。

3) 編集委員長、副委員長の委嘱について

○編集委員長に吉川 厚氏、副委員長に杉本雅則氏、村山 功氏が推薦され、異議なく承認された。

4) 年会企画委員長、副委員長の委嘱について

○委員長に谷塚光典氏、副委員長に佐伯昭彦氏、松浦拓也氏が推薦され、異議なく承認された。

5) 幹事の委嘱について

○庶務担当に青山和裕氏、経理・会員担当に坂谷内勝氏が推薦され、異議なく承認された。

6) 顧問の委嘱について

○小川正賢氏、清水康敬氏、三宅征夫氏、北原和夫氏、室伏きみ子氏、浪川幸彦氏、吉田 淳氏が推薦され、異議なく承認された。

7) 国際交流委員長、副委員長、委員について

○委員長に隅田 学氏、副委員長に鈴木真理子氏、委員に人見久城氏、宮崎樹夫氏、高橋みどり氏、森本弘一氏、山口武志氏、望月俊男氏が推薦され異議なく承認された。

8) 機関誌編集

○編集状況について報告があった。新規投稿論文 12 編、査読中論文 29 編、掲載決定論文 5 編であった。

○平成 24 年度特集（37-2、科学教師教育）の編集について、当初の計画通り 9 月末投稿締切の予定

で進めているとの報告があった。

9) その他

- 国際交流委員会より、昼食会などを利用し今後も活発化を図る旨の報告があった。
- 広報委員会より、レター作成の手続きについて委員会内で確認した旨の報告があった。また、学会 Web サイトへの記事掲載については各会務が担当して行うようにとのアナウンスがあった。
- 庶務理事より学会関連で稼働している ML 一覧について確認した。
- 年会発表賞のための投票箱の設置箇所についての確認と投票を促すようにアナウンスがあった。
- 機関紙編集より編集用にも 3 つの ML が稼働している旨の報告があった。

2. 協議事項

1) 2012～2013 年度の活動方針について

- 学会の法人化に向けて活動を展開することが会長から提案され 2 年間での移行を目指す方針が了承された。これを受けて、組織改革担当理事から次回関係資料等が提出されること、さらにそれを受けて各会務において問題点の洗い出しなどを行うことが確認された。

2) 理事の会務分担について

- 異議なく会長から提案があり、原案通り承認された。

3) 編集委員会の委員及び幹事の委嘱について

- 編集担当理事から提案があり、原案通り承認された。

4) 年会企画委員会の委員及び幹事の委嘱について

- 年会担当理事から提案があり、原案通り承認された。

5) 広報委員会の委員及び幹事の委嘱について

- 広報担当理事から提案があり、原案通り承認された。

6) 評議員、支部長等の委嘱について

- 評議員候補者の推薦を各理事より庶務担当の飯島理事宛に ML にて送信するように依頼があった。
- 研究会・支部担当理事から各支部長の委嘱について提案があり、原案通り承認された。

3. 次回以降の理事会予定

第 253 回（臨時）：2012 年 9 月 29 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

第 254 回：2012 年 11 月 3 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

平成 24 年度顧問会・評議員会・支部役員会合同会議報告

日 時 2012 年 8 月 27 日（月）18:30～19:30

会 場 東京理科大学 2 号館 241 教室

平成24年度顧問会・評議員会・支部役員会合同会議は、顧問（3名）、評議員（19名）、支部役員（3名）、役員（16名）、年会実行委員長（1名）が出席して開催された。吉田 淳会長と澤田利夫年会

実行委員長の挨拶、各自の自己紹介に続いて、小川理事（庶務）、坂谷内理事（経理・会員）から、事業報告、事業計画、収支決算・予算等について説明が行われた。その後、吉田会長から、法人化対応等の検討課題を含め新役員への学会運営への引き継ぎについて説明があり、参会者からこれらについて質問や意見が出された。

年 会

第 36 回年会 開催報告

日本科学教育学会第 36 回年会は、平成 24 年 8 月 27 日（月）から 29 日（水）にかけて東京理科大学神楽坂キャンパスで開催されました。年会テーマは、引き続き「次世代の科学力を育てる：社会とのグラウンディングを進展させるために」とし、活発で充実した年会が学会会員の皆様の発表と協力のもと開催できましたこと、大会実行委員会として御礼申し上げます。

全体シンポジウムでは「次世代の科学力を育てるための教員・指導者養成」というテーマで様々な立場からの発表や議論が行われ、「理学の普及を持って国運発展の基礎とする」を掲げ、理数教員養成に力を注いできた本学らしいシンポジウムとなったと思います。また、年会実行委員会企画セッション「次世代の理数力を育てる理数教育の研究：「予測のための中等数学」の開発」を開催し、小倉金之助先生の伝統を引き継ぎ、50 年以上の研究活動を続けている東京理科大学数学教育研究会の研究開発の成果を紹介することができました。本学の特色も出すことができた年会になりましたこと、大変感謝申し上げます。

本学の事情から、2 回連続の東京開催としていただき、ご迷惑をおかけいたしました。都心のキャンパスで交通の便が大変良いせいでしょうか、約 450 名の参加者を数え、盛会のうち、大会を終えることができました。

大変手狭なキャンパスではありますが、建物のリノベーションを行った直後ですので、「教室の移動が楽であった」、「良い環境のもと学会が開催できた」などの評価をいただきました。

本学の特色ということ言えば、参加者も 150 名以上ありました年会懇親会で今年度から理科大に戻られた理数教育センター長の秋山仁先生のアコーディオンの演奏をサプライズ企画として設け、参加者の皆様に大変な歓迎を受けましたこと、実行委員会として忘れられない思い出になりました。

昨年に引き続き、年会論文集の電子化に取り組み、少ない人数でなんとか皆様に USB としてお配りすることができました。誤植や誤り等があると思われそうですが、ご海容の程、お願い申し上げます。会場準備などでも不手際からご迷惑をおかけした点も少なくないと思われそうですが、皆様のご協力のもと年会を成功裏に終えることができましたこと、御礼申し上げます。

日本科学教育学会第 36 回年会実行委員会委員長 澤田利夫 （代 事務局長 清水克彦）

第 37 回年会 開催案内（第 1 次）

1. 日程：2013 年 9 月 6 日（金）～8 日（日）（3 日間）
2. 会場：三重大学共通教育校舎
<http://www.mie-u.ac.jp/traffic/index.html>
3. 連絡先：日本科学教育学会第 37 回年会実行委員会
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学教育学部 荻原彰

研究会・支部だより

平成 24 年度研究会開催のお知らせ（開催予定）

平成 24 年 12 月までの研究会の開催について、下記の通りお知らせいたします。なお、学会ホームページにも案内を掲載しておりますのであわせてご覧下さい。

(1) 平成 24 年度第 1 回研究会(九州沖縄支部開催)のご案内

[テーマ] 未来を拓く科学教育の研究と実践

[日 時] 平成 24 年 12 月 1 日 10 時～17 時（予定）

[会 場] 宮崎大学教育文化学部（宮崎県宮崎市学園木花台西 1-1）

① 発表申込み

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、連絡用電子メールアドレス、連絡先電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した電子メールアドレスを平成 24 年度第 1 回研究会企画編集委員：山本智一(宮崎大学 教育文化学部)までお送りください。

連絡先：[tyamamoto\[at mark\]cc.miyazaki-u.ac.jp](mailto:tyamamoto[at mark]cc.miyazaki-u.ac.jp)（山本智一）

〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1-1 宮崎大学教育文化学部

電話 0985-58-7504（山本研究室）

② 発表申込み締切

発表申込み締切は、平成 24 年 10 月 12 日です。

③ 原稿の提出方法等

発表原稿様式等については、発表申込みがあった方に電子メールにてお知らせいたします。原稿送付締切は、平成 24 年 11 月 9 日です。多くの方の発表申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 九州沖縄支部長 渡邊重義（熊本大学）

(2) 平成 24 年度第 2 回研究会（北海道支部開催）のご案内

[テーマ] 新しい教育課程における科学教育の充実した実践を求めて

[日時] 平成 24 年 12 月 8 日（土） 10:00~16:00（予定）

[会場] 北海道教育大学 札幌駅前サテライト hue pocket

〒060-0005 札幌市中央区北 5 条西 5 丁目 7 sapporo 55（4 階）

(<http://www.hokkyodai.ac.jp/satellite/sate-access.html>)

① 発表申込み

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、連絡用電子メールアドレス、連絡先電話番号、連絡先住所を明記した電子メールアドレスを担当（三橋北海道教育大学 札幌校）までお知らせ下さい。（発表機器は「プロジェクター」が使用可能です。）なお、送付電子メール件名は、「第 2 回日本科学教育学会研究会」でお願いいたします。

連絡先：[mitsubishi.koichi\[at mark/s.hokkyodai.ac.jp](mailto:mitsubishi.koichi@mark/s.hokkyodai.ac.jp)

〒002-8501 札幌市北区あいの里 5 条 3 丁目 1 番 3 号 北海道教育大学札幌校

電話&Fax 011-778-0435（三橋研究室）

② 発表申込み締切

発表申込み締切は、平成 24 年 10 月 8 日（月）です。

③ 原稿の提出方法等

発表原稿様式等については、発表申込みがあった方に電子メールにてお知らせいたします。原稿は、「PDF & ワードファイル」を、電子メールでご送付下さい。原稿送付締切は、平成 24 年 11 月 4 日（日）です。多くの方の発表申込みをお待ちしております。

④ その他（支部会のお知らせ）

「北海道・東北支部会」を研究会の昼食時に行います。ご参加の方は、11 月 25 日（日）までに電子メールで担当（三橋 [mitsubishi.koichi\[at mark/s.hokkyodai.ac.jp](mailto:mitsubishi.koichi@mark/s.hokkyodai.ac.jp)）までご連絡下さい。

日本科学教育学会 北海道支部長 三橋功一（北海道教育大学札幌校）

若手の会

第 36 回年会・若手の会 報告

若手の会は、年会の初日 8/27（月）の夜に、飯田橋駅近くのお店で開催しました。参加者数は、企画担当委員を含めて、計 15 名でした。20 代、30 代に限らず、さまざまな年齢層の方々にご参加頂きました。

会合では、専門分野の異なる「若手」が、それぞれの興味・関心について気さくな雰囲気でお話し合うことで、普段とは違う刺激を受けたり、科学教育の今後の展望なども語り合ったりしました。ご参加頂いたみなさま、ご支援頂いたみなさまに感謝申し上げます。

ここ数年間、若手同士のネットワークづくりを目的に会合を開催してきました。また来年度の企画を考えていきたいと思っておりますので、今後ともご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

■第 36 回年会「若手の会」企画担当委員

青山和裕（愛知教育大学）[kaoyama \[at mark\] auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kaoyama[at mark] auecc.aichi-edu.ac.jp)

加藤久恵（兵庫教育大学）[katohi \[at mark\] hyogo-u.ac.jp](mailto:katohi[at mark] hyogo-u.ac.jp)

ランチョン・ミーティング（昼食会）報告

日本科学教育学会第36回年会二日目の8月28日、会場となった東京理科大学の8号館地下多目的ホールにて、ランチョン・ミーティングが行われました。これは、入会まもない会員、外国人会員、学生会員、入会を検討中の学会参加者の方々に科学教育学会の活動を知ってもらい、新しい仲間のネットワークの構築・拡大のきっかけとしてもらうことを目的として、会員拡大委員と共催で行われたものです。熊野善介副会長・国際交流委員長の趣旨説明と歓迎のあいさつの後、三宅志穂国際交流委員の司会で、サンドイッチをつまみながら、なごやかな懇談が行われ、今後もこのような集まりを継続したいという吉田淳会長の挨拶で幕を閉じました。出席者は19人ほどと、それほど大きな規模ではありませんでしたが、会の「JSSE2012 Luncheon Meeting for New and International Members」の垂れ幕の前で記念写真を撮る姿、外国人留学生と新入会員が熱心に話し込む姿等が見られ、参加者に学会の親しみやすさを印象づけることができたと思われます。第1回の試みとしては成功だったと考えています。

（三重大学 荻原 彰）

海外の学会参加報告（6）～2nd UK Science Education Research Conference～

2012年7月2日～4日、英国ヨーク大学の科学学習センター(<https://www.sciencelearningcentres.org.uk/centres/national>)にて開催された、UK Science Education Research Conference – Research sharing with researchers –について報告します。本大会は、昨年続く第2回目の開催で、①英国で現在進行中の科学教育研究を共有すること、②英国科学教育の今後の方向性や可能性について議論を行うことを目的としています。英国内の科学教育を専攻する大学院生（主に博士課程学生）や研究者、54名が参加しました。

一般研究発表内容の大きな区分としては、「科学教授学習ストラテジー」「概念発達」「初等科学」「科学・科学学習への意識」「科学教育の社会文化的文脈」「STEM関連プロジェクトのインパクト評価」「科学教員養成」「義務教育後の科学教育」「学校科学教育の変革」「科学教員研修」があり、計33件の発表が行われました。発表時間は、質疑応答を含めて30分でした。一般研究発表以外では、特定テーマに関するパネルディスカッションが5件、ナフィールド財団関係者による今後の科学教育研究への期待に関する講演もありました。昨年他界されたフィリップ・スコット先生について、3名の関係者が別れを惜しみ、その偉業を称える特別発表もありました。

今回初めてこの大会に参加し、英国の大学院生と研究者が膝を交え、まだ予備的段階であっても自分の研究課題やアプローチ、結果を発表・共有し、密な議論を行っている様子が大変印象に残りました。

（愛媛大学 隅田 学）

(1) EASE (The East-Asian Association for Science Education) Conference 2013

2013年7月4-6日に、香港の「The Hong Kong Institute of Education」にて、第3回「International Conference of the East-Asian Association for Science Education」が開催されます。テーマは、「Building an International Platform for Exchange between Scientists & Science Educators」です。発表要旨（英語で150-500 words）の〆切は11月30日となっています。

学会ホームページ：<http://ses.web.ied.edu.hk/ease2013/>

(2) ICASE (The International Council of Association for Science Education) Conference 2013

2013年9月29日から10月3日に、マレーシアのボルネオにて、「The 4th World Conference on Science and Technology Education in 2013」が開催されます。テーマは、「Live Science, Love Learning, Create Change」です。発表要旨・原稿（英語で要旨+4ページの原稿）の〆切は12月31日となっています。

学会ホームページ：<http://worldste2013.org/conference.html>

編集委員会だより

----- 特集「科学教師教育」投稿締め切り延長のお知らせ -----

「科学教育研究」第37巻第2号での特集を企画しています。テーマは、「科学教師教育 (Pre-service and In-service Teacher Education for Science)」です。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほど、お願い申し上げます。詳細は、「JSSE ホームページ：新着情報：特集投稿募集のお知らせ」(<http://www.jsse.jp/jsse/>)をご覧ください。

■投稿締め切り：2012年10月31日（締め切り日が、9月30日より1ヶ月間延長されました）

■発刊予定：2013年6月

平成24年度第1回編集委員会報告

平成24年8月28日（火）11:30～12:30、平成24年度第1回編集委員会（旧委員、継続委員、新委員合同）が東京理科大学神楽坂校舎241教室において開催されました。

まず、編集委員の紹介が行われました。吉川厚新編集委員長、村山功新編集副委員長、新編集委員会発足については、理事会MLでの審議を経たものです。

次に、「科学教育研究」の編集状況の報告が行われました。新規投稿論文（2012.5.26～2012.8.10）が12編（和文11編、英文1編）、査読中論文29編（担当編集委員選定中2編、査読員選定中2編、第1回査読中6編、担当編集委員による総合判定中（1回目）1編、改訂稿待ち10編、第2回査読中4編、編集委員長による最終判定4編）、掲載決定論文が5編（研究論文3編、総説展望2編（36-3：6編、36-4：1編））です。

次に、査読の流れや手続き、査読システム改良の進捗状況について、銀島編集担当理事より説明がありました。平成23年度第3回編集理事会議事録についても報告がありました。

最後に、丹沢特集編集部会長から、第37巻特集「科学教師教育 (Pre-service and In-service Teacher Education for Science)」について、進捗報告がありました。また、吉川編集委員長から、第38巻特集のテーマについて、「学習科学」を候補として検討していることが報告されました。

次回、平成24年度第1回編集理事会は、2012年9月29日(土)、午前11時から13時、場所はコクヨ品川オフィスを予定しています。

科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(平成24年8月10日 現在)

	新規投稿論文数 (編)		審査中 (編)		掲載決定論文数 (掲載号)		招待論文数 (掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2011年 9月	16	2	23	2	1 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		7	0
10月	2	1	23	3	0 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		2	0
11月	8	0	28	3	1 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		2	0
12月	2	1	26	4	2 (36-1) 0 (36-2)	0 (36-1) 0 (36-2)	0		1	1
2012年 1月	6	0	26	4	4 (36-1) 0 (36-2)	0 (36-1) 0 (36-2)	0		1	1
2月	6	0	25	4	3 (36-1) 0 (36-2)	0 (36-1) 0 (36-2)	0		4	0
3月	14	0	30	4	4 (36-2) 0 (36-3)	0 (36-2) 0 (36-3)	0		5	0
4月	4	0	24	1	7 (36-2) 0 (36-3)	2 (36-2) 0 (36-3)	0		4	0
5月	7	1	25	2	0 (36-2) 2 (36-3)	0 (36-2) 0 (36-3)	0	2 (36-2)	4	0
6月	4	0	27	2	0 (36-3) 0 (36-4)	0 (36-3) 0 (36-4)	0		2	0
7月	4	0	26	2	4 (36-3) 0 (36-4)	0 (36-3) 0 (36-4)	0		1	0
8月	3	1	27	3	0 (36-3) 1 (36-4)	0 (36-3) 0 (36-4)	0		1	0

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 209 号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」(Web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：久保田善彦（上越教育大） 谷塚光典（信州大）
委員：縣 秀彦（国立天文台） 銀島 文（国立教育政策研究所）
稲垣成哲（神戸大） 東原貴志（上越教育大）
今村哲史（山形大） 高橋みどり（静岡科学館る・く・る）
幹事：小松孝太郎（信州大） 福井智紀（麻布大） 内ノ倉真吾（静岡大）

科学教育研究レター編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□事務局 宮崎大学大学院教育学研究科 内

□事務支局（入退会・会費・学会誌発送関連） TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

中西印刷(株) 学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□編集事務局（論文投稿・査読編集） TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷(株) 学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会